

国鉄 EF55形電気機関車 形式図

1935年に製造された流線型電気機関車
 当時はC53内1輛を流線型に改装したのをはじめ、
 モハ52、キハ43000など国鉄も私鉄に劣らず流線型
 時代を現出したが、本機もその一員として華々しい
 デビューぶりであった
 実質的にはEF53と殆ど変わらず、高性能を持たせ
 るため、歯車比を変え、車軸配置を2C1とした程度
 流線型は外観上の効果だけにとどまり、かえって不
 便な点が目立ち、3輛のみに終わった
 晩年は車体下部のカバーを外したままの姿で働き、
 東海道線から高崎線に転じて生涯をとじた
 今はただ、懐かしの流線型電機EF55である

